放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2024年9月　　事業所名　放課後等デイサービス虹の郷

		チェック項目	実数			割合
			はい	いいえ	合計	はい　いいえ
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	8	0	8	100% 0%
	2	職員の配置数は適切であるか	8	0	8	100% 0%
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	6	2	8	75% 25%
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	8	0	8	100% 0%
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	8	0	8	100% 0%
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	8	0	8	100% 0%
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	3	4	7	43% 57%
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	8	0	8	100% 0%
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	8	0	8	100% 0%
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	8	0	8	100% 0%
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	8	0	8	100% 0%
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	8	0	8	100% 0%
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	8	0	8	100% 0%
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	8	0	8	100% 0%
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	8	0	8	100% 0%
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	8	0	8	100% 0%
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	8	0	8	100% 0%
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	9	0	9	100% 0%
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	8	0	8	100% 0%
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	8	0	8	100% 0%

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	9	0	9	100% 0%
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	8	0	8	100% 0%
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	8	0	8	100% 0%
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	8	0	8	100% 0%
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	8	0	8	100% 0%
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	8	0	8	100% 0%
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	8	0	8	100% 0%
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	8	0	8	100% 0%
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	5	3	8	63% 38%
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	8	0	8	100% 0%
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	8	0	8	100% 0%
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	4	4	8	50% 50%
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	8	0	8	100% 0%
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	8	0	8	100% 0%
	35	個人情報に十分注意しているか	8	0	8	100% 0%
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	8	0	8	100% 0%
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	9	0	9	100% 0%
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	8	0	8	100% 0%
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	8	0	8	100% 0%
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	8	0	8	100% 0%
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	8	0	8	100% 0%
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	8	0	8	100% 0%
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	8	0	8	100% 0%

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2024年9月　　事業所名　放課後等デイサービス虹の郷

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	支援室の他に学習室の空間があり、遊び内容や個々の様子に合わせて使い分けている。	やりたいことによって場所を決めたりマットなどで色分けするなど、広いスペースも区切れるように工夫している。
	2	職員の配置数は適切であるか	有資格者の配置や利用者人数により基準を満たすようシフト調整している。	個別支援が必要な利用者に対して配慮し、利用人数によって職員配置の人数の配慮をしている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	フラットな作りになっており、個別に過ごしたい部屋もある。	設備が古くなってきていることもあり、修繕が必要な場所もある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	毎日ミーティングを行い振り返りを行っている。参加できない職員には流れを伝えている。	長期休み中はSNSを活用して共有。特性に配慮し、集団だけでなく個別にも対応できるよう内容に工夫を入れている。行動を予測しながら細かい打合せに心がけていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	定期的に保護者にアンケートを実施し業務改善に努めている。	その他、日々保護者と顔を合わせたときのコミュニケーションを大切にし、その時に得た意向は職員で共有。よりよい支援のために全員で考えていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	定期的に実施し、ホームページにて集計公開。	利用が遠退いている方にも、会報を届けるなどで発信を続けていきたい。ホームページの存在を知らない人も多い為、見ていただけるように発信していきたい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	以前受けたことはあり、今の利用者のニーズに合わせ改善につなげている。	地域の方からの外部評価などを受けながら、改善に向けていく
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	虐待防止研修をはじめ車内研修に参加したり、独自の研修も行い質を上げることを大切にしている。	全員参加でなくとも資質向上につながると感じた研修は、管理者から職員に参加を勧めている。研修報告書にて記録に残し振り返れるようにする。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	アセスメント用紙を元に、きめ細やかな聞き取りをおこなっている。	児童発達支援管理責任者から内容を伝え全員が共通理解しながら支援きるよう努めている。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	指定のアセスメントツールを使用している。	アセスメントツールを基に、個々の適応行動の状況を適切に図れるよう丁寧に行っていきたい
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	どのような活動がいいか職員全員で意見を出し計画している	繰り返すことでで、成功体験が増えるものは継続し、新たなものも取り入れる工夫をしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	継続的に行うことを大切にしながらも、新しい活動を取り入れながら子どもたちが楽しく参加できるようにしてい	初めての経験に戸惑う子も多いため、繰り返し行うことも大切にしながら、子どもたちの姿に合わせて内容を変化・発展させていきたい
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	利用時間が長い日は、時間を有効に使える活動を取り入れたり支援が充実するように皆で話し合って決めている	1人1人の気持ちを大切にし、日々の行動から課題を拾うように心がけていく。地域の方との交流できる機会を増やしたりしていきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	子どものことを把握できるように職員全員で意見を出し、作成している	集団活動でも子に合わせて個別で対応するなど、ひとつの方法だけでなくみんなが活動に参加できるように今後も継続していく。その場合は、意図をしっかり持ち支援してく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	その日予測される行動、リスクを前提に話し合いができている	活動・支援について共有しているが、具体的な役割分担について個々への対応の確認していく必要がある
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか	平日は支援前に打ち合わせを行っている。すぐに共有すべきことはその日に伝えあい振り返りできている	特に学級日には、全員で揃って会議をする時間が少なくなってしまう。会議だけではなく気付いたことはすぐに報告・相談をしたり共有ノートに記したりすることで、共有漏れがないように努める
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	何かあったとき、振り返り、状況がわかるように記録に残している	利用者記録の記入が独りよがりになってしまわないよう、全員で情報を交わしながら書けるように徹底していく

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	モニタリングで利用者の状況等共有している。	支援会議からみんなが関わり、個々の成長を色んな観点から考え、計画作成を丁寧に行いたい。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	目を通し再確認できるようにしている。	ガイドラインについて施設や支店単位で研修を行われているが、普段からよく読み直して支援に繋げられるようにしたい
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	管理者兼児童発達支援管理責任者が参加している。	必要な情報を全職員に伝達するよう心掛けている。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	毎月学校だよりの受取、送迎時に日々の変化を申し送りしていただくこと、トラブルについては状態に合わせて連絡を取っている。	送迎時だけでなく必要に応じて連携会議や電話連絡をすることで、より学校と連携した支援を図ることが出来る。さらに情報共有できるよう、学校との連絡を大切にしていきたい
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	現時点で医療的ケア児の利用はない。	今後必要とする子が出てきたときは保護者の方や主治医の方と連絡が取れるよう体制を整えたい
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	就学前の時点で利用を希望している子については、申し送りを受けている	１人１人に関する情報について、より深く共有し合えるよう努めていきたい
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	卒業前から移行に向けて関係機関と話し合いをしている。	本人に合った福祉サービスが受けれるように関係機関への情報提供、連携を大切にしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	機関主催の研修会を受けている	研修に限らず、日常的に連携を取り合う体制を確立していきたい
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	近くの小学校のグランドに遊びにく、児童館訪問、図書館に行く活動を取り入れている。	市や児童館主催のイベントにも参加できるように、日頃から機関やボランティア団体、地域の方との繋がりを大切にしている。引き続き、交流が行えるような環境を整えていく。ジュニアリーダーとの交流
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	地域での課題について検討できている。また幅広い視点から考える機会となっている	参加した時には、必要な情報は職員に伝え、地域の施設としての心構えができるように努めている
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	連絡帳や送迎時だけではなく、子どもの様子・変化等電話やメールも使って伝えるようにしている	今後も、安心して利用していただける居場所となるよう、保護者の方との意思疎通を重要視していく
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っているか	研修としては行っていないが、個々に相談を受けながら子育てに関する助言を行っている。	郷カフェを開催しており、より多くの保護者様のご意見・ご相談を聞き取りたい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	契約時等細かい所まで丁寧に伝えている。	不明なことがあればその都度説明する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	必要に応じて時間を設け、事業所内で面談している	利用者本人だけでなく、ご家族に関する悩み等もお聞きすることで、保護者の方の気持ちに寄り添えるよう努めている
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	気軽に話ができるカフェを毎月計画している。	参加者がないのが課題。毎月新聞やメールで発信しているが、気軽に参加していただけるよう工夫をしていく必要がある。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	必要に応じて関係機関と連携をとっている	発生した問題についてどのように対応したのか、どのように対応していくのかを具体的にお伝えすることで、安心して通っていただけるよう努める。また、お子様の安心できる対応について、保護者の意見もお聞きしていき
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	会社でのかわら版の発行や郷新聞の発行にて発信している	事業所での様子を写真や文章にて記載し、活動や子ども達の様子についてお伝えできるようにしている。また、連絡事項について分かりやすく記載できるよう心がけている
	35	個人情報に十分注意しているか	個人名の記載されたものは、シュレッターにかけたり、書類については鍵月の書庫に保管している	今後も個人情報には十分に気を付けていく。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	絵や文字・言葉などを組合わせて伝えたり、家での様子を聞くなどしながら共有し伝わりやすい伝達方法に配慮している。	どのような伝え方がより分かり易いのか、職員間で工夫をしていきたい
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	活動の中に地域での手伝いや散歩に出かけるなどしている	継続し、地域に開かれた施設を目指したい

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	マニュアルは施設内の決められた場所に保管し、すぐに見られる位置で確認することができている	年に一度マニュアルを見直すことで、常に新しい対応ができるよう努めていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	活動に避難訓練を取り入れ、水害・地震災害での訓練をしている	地域の消防署にお願いし火災時の訓練などもしていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	全員参加に努めている 研修会だけでなく虐待防止のために職員のコミュニケーションも大切にしている	繰返しの研修と研修後にレポートを書いて振り返り、常に虐待防止が意識できるように継続していく。日々の支援でも振り返り職員同士で話し合い、話しやすい雰囲気つくりをしていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	契約時に説明し、必要な場合は書面いて署名をもらっている。	必要な際には、説明責任を果たし、支援計画に記載する
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	保護者から必要な対応について細かに教えて頂き全職員で共有する。	職員も周知して対応出来るよう徹底していく
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	毎日、ヒヤリハットを振り返り原因を探り予防に努めている。特に多い事例は定期的な会議でも話し合っている。	日々のヒヤリハットを振り返るだけでなく、内容をまとめて全体として振り返ることで、危険な時間帯・場所など、傾向をつかんで対策していきたい。